

ご存知ですか？

京都に**米軍基地**があることを (NO. 23)

京丹後市の「航空自衛隊経ヶ岬分屯基地」の東隣に米軍基地が造られました。ここは風光明媚で、丹後半島を中心に「海の京都」として京都府も観光に力を入れている所です。

発行:2024年2月10日



米軍基地の所在地

米軍基地建設の経過

- 2013年2月 日米首脳会談で京丹後市・宇川に「米軍Xバンドレーダー」を配備することを決定
- 2013年9月 京都府と京丹後市による「基地建設協力表明」
- 2014年5月 基地工事着工
- 2014年12月26日 米軍Xバンドレーダー基地の本格運用開始
- 2018年4月～米軍人の宿舎建設などの2期工事。21/5月完了



自衛隊基地と米軍基地に挟まれて「穴文殊」の参道がある。

「穴文殊」参道の西には自衛隊基地
(3年かけて拡大強化され2018年3月完成)



「穴文殊」参道の東は米軍基地
国道178号線に隣接する基地。手前は集落のお墓。
大戦の戦没者も祀られている眼前に軍事基地が。



写真は清涼山「九品寺」
(通称「穴文殊」)の参道

参道の両側には「京都府の自然200選」に選ばれたクロマツの大木が並んでいます。

地元の人たちの信仰のよりどころとして大事にされている「穴文殊」は周囲358度を軍事基地に囲まれてしまいました。2021・6・16に「土地利用規制法」が成立し、2022・9・20全面施行されました。ここ経ヶ岬の軍事基地周辺も国の監視範囲に入り、「穴文殊」のお参りも監視され、チェックされるのでは。国道沿いに並ぶ日・米の軍事基地が、住民にとってますます重苦しいものになっています。

この米軍基地は、米国の「ミサイル防衛システム」の一環として造られたものです。中国や朝鮮を仮想敵とし、米国に向けてミサイルが発射されたら、そのミサイルを探知し、追尾し、撃墜するための情報をキャッチするXバンドレーダーを配備した、**米国を守るための**、米軍基地です。

自衛隊の「ミサイル防衛」は、米軍のそれとシステム的に連動しています。それゆえ、日米軍事一体化と日本による集団的自衛権行使に向けた動きを強めるものとなっています。現に、「基地警備」を口実にした宇川での米軍と自衛隊との合同軍事訓練は年ごとに強化されています。

ウクライナに侵攻したロシア軍が真っ先に破壊した施設の一部は、ウクライナのレーダー群でした。この現実を見て、宇川の住民から、「Xバンドレーダーが攻撃の対象になりうること、Xバンドレーダーが攻撃を受けたら地元の人々には逃げ場もない」、といった不安が表明されています。

基地や軍備で「平和」は築けません



経ヶ岬で日米合同訓練 (22年11月)



▼ 辺野古新基地建設に反対します▼

政府は沖縄県の権限を取り上げ、代執行によって辺野古埋め立てを強行しています。沖縄の人々の民意を踏みにじり、「軟弱地盤」や「活断層」の存在も無視した辺野古新基地建設はただちに中止すべきです。

経ヶ岬から見えてくる、日米軍事一体化への道

大規模な日米合同軍事演習の際などに、宇川でも日米の合同軍事訓練が行われています。このかん「基地整備訓練」という名で、基地周辺での戦闘を想定した「第一線救護」や、生物・化学兵器や核物質、ドローン攻撃への対処など、物々しい訓練が行われてきました。「攻撃されることは無い」(近畿中部防衛局の説明)はずの基地で、日米両軍による軍事訓練が拡大しています。米軍と自衛隊の一体化が進んだ先は、一緒に戦争する道です。



基地撤去を求めて京丹後でデモ 23.11.10

武力で平和はつukれない

経ヶ岬の米軍基地は、その隣の自衛隊基地と合わせて、土地利用規制法で「特別注視区域」に指定されようとしています。ミサイル統合防衛の基地として、軍事的役割が重要視されていることのあらわれです。

岸田政権は、民意も法律も踏みにじて辺野古新基地建設や「南西諸島」への自衛隊ミサイル基地配備を進めてきました。米国から敵基地攻撃能力を持つ戦闘機やトマホークを大量に購入し、米軍と一体となった自衛隊の本格的な海外派兵への準備が進められています。さらに、京都府南部の精華町祝園には大型ミサイルを収納できる陸上・海上自衛隊共用の弾薬庫8棟を作るための予算 102 億円が計上されました。戦争の準備をさせない運動こそが、いま求められています。



経ヶ岬展望台方向から見る米軍基地のレーダーサイト

★私たちはこのチラシを京都市内で配りながら、戦争準備反対を訴えています。
★基地現地でのチラシ配布も毎月取り組んでいます。
基地は日本のどこにも要りません。

軍拡ではなく平和の内に生きられる社会を

2022年末の安保関連3文書での敵基地攻撃能力の保有は、先制攻撃戦略への大転換です。

自公政権は、ロシアのウクライナ侵略や中国、朝鮮などの「脅威」を言い立てて、日本を取り巻く安全保障環境は大きく変化したと主張しています。しかし、これは軍事費の拡大や自衛隊の拡充、日米軍事同盟の継続を正当化するための口実にすぎません。

岸田政権は、防衛費を5年で倍増する大軍拡方針を閣議決定しました。防衛装備移転三原則を大きく見直し武器輸出のできる国に変わろうとしています。大軍拡は、大増税と福祉の切り捨てを伴う事は明らかです。武器輸出のできる国は軍需産業がこえ太る産業構造に大きく変化し、同時に「経済安保」と称して労働者への思想統制が厳しくなります。

今こそ日本国憲法前文の「平和を愛する諸国民の公正と信義に信頼して、われらの安全と生存を保持しようと決意した。」という宣言を再確認し、大軍拡の流れを止めていきましょう。

米軍Xバンドレーダー基地反対・京都連絡会

連絡先：京都市上京区四番町 121-5 大湾方 TEL/FAX：075-467-4437

E-mail：kyogamisaki2013@yahoo.co.jp